

農繁期 レポート

令和5年 8月号

栄ファーム

オーナー 栄運輸工業株式会社
産地 鳥取県日野郡日南町
水田面積 18.4アール
保証量 玄米828kg
形態品種 特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

皆様にご心配頂いた台風は通った経路が幸いして雨風が少々強い程度で済み、穂が出たばかりの稲には影響ありませんでした。8月は味を求めてミネラル分等の追肥とカメムシの防除を行いました。来月10日頃から徐々に稲刈りかが始まります。猪対策もしたので万全です。

8月の作業内容と稲の生長

1. 出穂 (しゅっすい)

茎の中で籾 (もみ) の集合体である「穂」が育まれ、約半数の茎が出穂する時期を「出穂期」、全ての穂がそろると「穂揃い期」と言います。出穂後に稲が葉で光合成したブドウ糖を穂に送り込み貯蔵します。これがお米です。

2. 稲の開花

イネの花を見る機会は少ないと思いますが、このような白い清楚な花を咲かせます。晴れた日の午前中にしか見られません。開花時間はわずかに約2時間です。ちなみに1本の穂には100個くらいの花がついています。

3. 積算温度とは

平均気温を加算した値のことを言いますが、出穂 (穂から1粒以上の籾が確認できる状態のこと) から45日程度経過し、積算温度が1,000°Cに到達したタイミングが稲刈りの適期と言われています。

5. 草刈りが大切

農業は常に草との戦いです。特に今年は梅雨の長雨により草の勢いが通常よりも強めでした。この時期の草刈りはカメムシの混入を防ぐためにも特に大切な作業となります。カメムシの被害を受けたお米は黒く変色します。



出典: Kubota

4. 刈取適期の判断

日平均気温が22°Cだとすると、出穂後約45日で成熟期を迎えます。(積算温度で約1,000°C)そして、籾の9割くらいが黄色くなってくれば(黄化といえます)、いよいよ刈り取り適期となります。

